

戸田建設が考える将来の海外事業の姿

- NAVIGATING THE FUTURE OF TODA CORPORATION IN 2030 -

戸田建設(株)(社長:今井雅則)は、このたび、「未来の歩き方 NAVIGATING THE FUTURE OF TODA CORPORATION IN 2030」(以下、本冊子)を発行しました。当社が2017年3月に発行した「未来の歩き方~戸田建設が考える2030年の建設業の姿~」※¹、2018年3月に発行した「未来の歩き方 戸田建設が考える30年後の建築-設計編-」※²に続く、当社および当社グループ(以下当社)の未来の姿を描く第3弾です。

※¹:10~15年先に「できるはずの技術」を想定し、高度な情報化などによって実現する生産性の高い「夢ある建設業」を描いたもの。

※²:当社が今後の社会の変化に則した変革を実施し、ステークホルダーとともに建物やまちなどの「継続進化」を実現していく未来像を描いたもの。

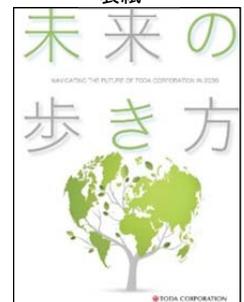
※¹・² 参照サイト: <https://www.toda.co.jp/pickups/mirai.html>

1. 制作目的

本冊子は、今後世界や日本で発生する社会課題を、当社の海外事業が世界と日本をつなぐ架け橋となって解決し、「持続可能な開発目標(SDGs)」※³の実現に貢献できるような未来の姿を描くことを目的として制作されました。

※³:世界のリーダーが2015年9月の歴史的な国連サミットで採択した持続可能な開発のための2030アジェンダに盛り込まれた17の目標。

表紙



2. 内容 (全16頁:A4判)

予想される社会課題を整理し、当社の海外事業リソースを最も有効に活用できる未来のあり方を示しました。その上で、課題解決のための下記の3つのアプローチを提示しています。

- ① 発展途上の国々へのアプローチ(ブラジル)
- ② 日本化する都市へのアプローチ(東南アジア)
- ③ 世界の適地につくるイノベーション拠点(北米/欧州)

都市の発展段階に応じた特徴の違いを認識し、各国の成長ステージに合わせて展開する海外事業の未来の姿を描いています。

当社の未来の海外事業のあり方

未来の海外事業のあり方

全体の概要

- 3つの拠点
 - ① ブラジル: 南米に加え西アフリカも統括する発展途上の国々へのアプローチ (P7-8)
 - ② 東南アジア: 東南アジア・南アジアを統括する日本化する都市へのアプローチ (P9-10)
 - ③ 北米/欧州: イノベーション育成の拠点となるイノベーション拠点 (P11-12)
- 働き方
 - ・ キャリアアップには海外事業部の経験が必要となる。
 - ・ 人材の多様化。ローカル人材が多数を占める。
 - ・ 海外事業部の社内公用語は英語になる。
 - ・ 大型プロジェクト終了後は長期(カンサ)。
 - ・ 大型作業所には医療室、宗教施設、レクリエーション施設(プール/バー、ジム、Canteen、ゲーム、Wi-Fi)が充実する。
- 施工社員
 - ・ 技術的な問題は国内の技術者をホログラムで呼び出しアドバイスを受ける。
 - ・ 競争力に多少不安があってもAIによる自動翻訳でカバーする。
- 営業社員
 - ・ 海外においては、Toda Corporation = 建設会社ではなく、その一翼を担う新規事業に携わる社員は常に新しいビジネスを探し、コネクションを作っていく商マンのような動きをする。
- 管理系社員
 - ・ 資金の運用マネジメントに関するスペシャリスト、工事費用、キヤッシュフロー、資金運用など幅広く対応する。
 - ・ 契約期間の延長もAIを駆使することで生産性が向上する。リーガルチームのスペシャリストも存在する。

機材センター

- ・ 世界各地の現場へ資機材供給
- ・ 遠隔操縦
- ・ 一括オペレーション

Where? ...スリランカ/パキスタン/フィリピン
条件: 人口増加や経済成長が進行、教育レベルがある程度存在

Where? ...スリランカ/パキスタン、ブラジル/セネガル、ロシア/北海道
条件: 海運が容易、寒冷地(遠隔操縦用筐体やサーバーの排熱抑制)

人財育成センター

- ・ ローカル人材の育成
- ・ 戸田建設とのコネクションを持つ人材の供給

日本の人口減少で、グローバルに動く人材を国内で多くの人財育成センターを海外に設立することで、戸田建設とのつながりが強いグローバル人材を育成する。あえて戸田建設への入社を前提としないことで世界中に人材が供給され、ネットワークを構築する。

当社のBCP機能

- ・ 日本や当社が属する国での災害発生時にサポート機能も有する。
- ・ サイバー攻撃等でIT機能がマヒした際には機能が使用できない。人財育成センターでアナログな操作を学んだ人材も同時に育成し有事に備える。

重機のみならず、仮設材、資材等を供給する役割を担い、戸田建設以外の企業への供給も展開する。さらにコンセプション事業などインフラのオペレーション機能を統括する

3. 今後について

社内外に本冊子を配布し、未来への方向性を共有することで、今後の企業変革やお客様とのビジネス機会拡大に役立てていきます。

なお、本冊子は、当社資料請求ページ <https://www.toda.co.jp/inquiry/pamph/choice.html> より入手可能です。